

日本鍼灸の特徴

ベンジャミン・チャント

森ノ宮医療大学鍼灸情報センター、University of New England

主に3つのトピックについて説明します。最初に、日本鍼灸を研究しようと思ったきっかけをお話ししたいと思います。次に、どのように日本の鍼治療の特徴を調査したかについて少し説明します。最後に、この研究の結果をいくつか紹介し、日本の鍼治療の特徴の概要を説明します。日本の鍼治療を説明するために、中国の鍼治療と比較してみます。中国の鍼治療の話をする際、西洋的な鍼治療という意味です。

私はオーストラリアから来ました。オーストラリアで鍼治療を勉強し、そこでクリニックを運営しました。鍼治療は、全国医療委員会によって管理されている登録された職業です。この委員会の名前は「オーストラリアの中国医学委員会」で、委員会のメンバーの約半数が中国人です。この委員会は鍼治療の基準を定めており、中国の強い影響力のため、オーストラリアでの鍼治療の教育、実践、研究は非常に中国的なものです。実際、私が鍼灸の学生だった時の先生はほとんど中国人でした。そして、私たちはコースの一環として中国語を勉強しなければなりませんでした。私の講座は中国の大学のカリキュラムに似ていて、鍼灸と一緒に漢方薬を勉強しました。日本の鍼灸を見た時は、一度も見たことがないものばかりでした。初めて見る日本の鍼灸に興味しましたが、それと同時に「なぜオーストラリアの鍼灸の学校では教えてもらえなかったのだろうか？」と混乱したのを今でも覚えています。「私には他にも知らないことがあるのだろうか？日本の鍼治療とは何だろう。」と思いました。この経験が、日本の鍼治療についてもっと理解しようと思ったきっかけです。私は世界中の人々からよくメールで質問を受けます。ほとんどの人は日本の鍼治療とそれを調査するための良い研究方法がわからずに混乱しています。日本の鍼治療はまだ多くの人々にとって未知の世界なのです。

伝統的な日本医学または日本の鍼治療の定義がありません。世界に日本の鍼灸をどのように説明するのか。定義と記述の両方の要素は、日本の鍼治療とは何かという疑問に答える上で非常に重要です。そこで私は、定義を作ってみることから始めました。

考えられる定義はたくさんありますが、私の定義は、後で説明する民族誌の観点に基づいており、日本の鍼治療の3つの非常に重要な部分と思われるものも含まれます。私の定義は次のとおりです。日本の鍼治療は日本で発達し、教えられ、実践されている鍼治療です。私たちが日本の鍼治療の特徴について話すとき、日本の鍼治療の完全な説明をすることができるように開発、教育と実践を記述することが重要であると思います。開発とは、日本の鍼治療の歴史と文化、社会経済的、環境的背景を含みます。

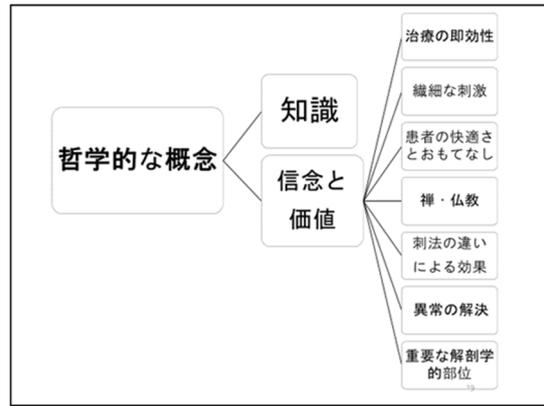
教育について。日本の鍼治療の教育がどこで、どのように行われているのかの説明も必要です。また、大学や専門学校だけではなく学会などについても説明する必要があります。

日本の鍼治療の最後の側面は「実践」です。実践とは、哲学的な概念、診断および実際の治療を意味します。私が自分の研究について臨床家と話をするとき、ほとんどの人が実践について(特に治療の原則について)知りたがっていますが、開発や教育について興味を持っている人は誰もいません。開発と教育に関するいくつかのデータがありますが、「実践」は英語で日本の鍼治療の最も研究されていない側面です。そこで私は、英語で日本の鍼治療の実践を説明するデータがほとんどなかった事に着目し、これを調査の焦点として選びました。目的は、日本の鍼治療を実践することでした。鍼治療はもと中国からきましたが、中国と日本の鍼治

療には若干の違いがあります。なぜ違うのかと考えた時、文化的な違いがあるのではないかと思ひ、日本の鍼治療を理解する唯一の方法は、自然の社会的文化環境の中でそれを調査することだと考えました。そこで私は来日して、調査をすることにしました。文化現象を調査し説明するための最良の調査方法の1つが民族誌学です。特に主題を知るための第一歩として民族誌学を用います。民族誌学は特定の民族とその文化の徹底的な研究です。それは通常の生活に重点を置き、環境が信念や行動にどのように影響するかを調べます。鍼治療は一種の医療法であり、日本の鍼治療の特徴を完全に説明するためには、社会文化的な文脈でそれを理解することが重要です。民族誌学は、特にデータの収集と分析を行うための良い方法です。一般的に、民族誌的方法は、長い間グループと一緒にいることに依存しているので、それらを知ることができます。典型的なデータ収集方法には、文書の収集と分析、インタビューの実施、および臨床観察の実施が含まれます。この研究は博士課程プロジェクトの一部です。私はオーストラリアで準備を始めました。当初、一人の日本人の開業鍼灸師に協力をお願いしました。私は日本に拠点を移し、周りの人々の協力のおかげで38人の開業鍼灸師と面会することができました。175人の患者で延べ225回の治療を見ることができた診療所を観察しました。したがって、これは小規模の研究プロジェクトです。しかし、民族学的方法には非常に適切であり、英語で日本の鍼治療を説明するには不可欠な最初のステップです。

哲学的概念から始めましょう。哲学的概念は、基本的な概念、理論、規則、および原則を扱う医学の分野です。哲学的概念について話すとき、2つに区分します。知識、信念と価値です。

まず知識についてお話しします。ここでいう、知識とは私達が教科書で見える情報のようなものです。様々な考えがあり、考え方のことを説明モデルと言います。伝統的な医学、東洋医学、整形外科。基本的にこれは伝統的な医学の知識と現代の医学に分けることができます。これらの3つの説明モデルが日本の鍼治療で使用さ



れていることを発見しましたが、研究では伝統的な知識にのみ焦点を合わせました。しかし、日本には伝統的な知識を完全に無視し、現代の医学だけを使用する鍼灸師がたくさんいることを理解することが重要です。

東洋医学の知識には3つに分けられます。『身体の構造と機能』『順序性、バランス、変化、循環』『病気の識別と部位』です。東洋医学の知識では、日本の鍼治療と中国の鍼治療は基本的にすべて同じ知識を使用していますが、日本にしかない特徴が沢山あります。

体の構造や機能に関しては、日本の鍼灸師は経絡と気を重要視していると思います。これを中国の鍼治療と比較すると、臓腑と経穴自体に重点が置かれていると思います。

順序性、バランス、変化、循環に関しては、日本の鍼灸師は五行と八綱弁証を重要視していると思います。中国の鍼治療と比較すると、六經辨証と陰陽自体に重点が置かれていると思います。

病気の鑑別と部位に関しては、日本の鍼灸師は邪気の量とその部位を重要視していて、邪気をさらに「熱」「寒」に分別します。さらに日本の鍼治療は証を立てる際に、簡単に沢山証をたてる傾向にあり、この話は後ほど詳しくお話ししたいと思います。中国の鍼治療と比較すると、三焦と温病と六淫自体に重点が置かれていると思います。

一般的に、私は中国の鍼治療で知識は漢方薬に影響されていると思います。そして日本の鍼

治療の知識は単純化、または体系化されています。

鍼治療における哲学的概念を説明、比較、または対比するほとんどの研究は、知識に焦点を当てています。残念ながら、一番大切と言える部分の信念や価値観は反映されていません。文化的慣習と鍼治療のスタイルを直接結びつけ、どう知識を使っているのか、またどう影響を与えているのかは非常に重要です。民族学的観点の結果として、私は信念や価値観についての洞察を得ることができました。信念や価値観に関して日本の文化から7つテーマを見つけました。鍼灸院での鍼灸師の姿勢や治療のルーチンで実証済みです。これは鍼灸師が診療所でどのように活動しているかを表しているように思われ、これらはすべて日本の鍼治療の特徴であると思います。

それでは、診断方法に移りましょう。診断方法は、患者の状態を判断するためにデータを収集する手順と実践です。診断には、実際の実践的な診断方法と、これらの手順を通じて得られた情報の解釈の両方が含まれます。これを診断結果と呼びます。鍼灸で検査の方法が6つあります。資料、問診、視診、触診、聴診、神秘的なものです。これは珍しい方法ですがお腹の音を聞く、また、気をみる人もいます。

中でも、日本の鍼治療は問診と触診を重要視していることがわかりました。問診は方法が2つあります。1つ目の方法は証を立てるように東洋医学的な質問をします。2つ目の方法は西洋医学に基づいて病態生理学を決定します。ですが中には、東洋医学的なことを使用しない鍼灸師や、全く東洋医学的な質問をせずに整形外科的な質問だけをする鍼灸師もいます。

基本的には触診は体と脈を診ます。これらの数字は私の研究によるもので小規模ですが、日本の鍼灸師の65%は脈診を行っていました。日本の鍼灸の特徴は脈を2箇所見ます。しかし、時々片方の脈だけ見る鍼灸師もいますし、全く診ない鍼灸師もいます。日本の脈診は種類が少なく、日本の鍼治療における単純さを大切にし

ているということがわかります。対照的に、中国の鍼灸では脈の種類がとても多いです。中国の100%の鍼灸師が脈診を行います。片腕ずつ脈をとる方法を使います。私が見学した全ての鍼灸師は全員触診を行いました。日本の鍼治療における触診は非常に正確です。日本の鍼灸師は意図的に手の部分や圧力の重みを変えて触診を行います。圧迫の量は3gというように非常に特殊な決まりが多く、これは日本の鍼治療の特徴です。

診断結果に進みたいと思います。診断法は基本的に日本の鍼治療で3種類の診断結果をもたらします。弁証論治、体の異常、痛みや不快感です。日本の鍼治療において弁証論時には特徴があります。簡単な証をたくさん立てることです。私の研究の62%の鍼灸師が証をたてました。証は基本的には経絡、気と八綱弁証から成り立っています。これを中国の鍼治療の証と比較しましょう。これは、患者さんのすべての症状を組み合わせた非常に複雑な証です。証が複雑なので目的が細かく決まっています。さらに経穴を決めやすいという特徴があります。日本の証は簡単なため目的も簡単です。そのため証に対する情報が足りないで経穴が沢山あり、治療法方が2つあります。一つ目の方法は、正しい経穴を探し、試行錯誤しながら治療する方法です。二つ目の方法は限られた数の一般的な経穴を使用し治療します。異常を見つける際の鍼灸師のスキルに基づいています。私の研究の100%の鍼灸師が身体の異常を見つけました。日本の鍼治療では、体の異常のタイプには2種類あることがわかりました。1つ目のタイプは、身体異常は主要な症状と周辺組織に関連するという事です。例えば肩が痛い患者さんがいたとしましょう。その場合は肩のまわりの異常をみます。2つ目のタイプは重要な部位を診断的かつ治療的に事前特定することです。これらは、どんな症状を抱えていても、鍼灸師がすべての患者に対して治療することができる組織です。例えば、風邪でも、癌でも、決まっている箇所の異常だけを見るということです。肌をみる鍼灸師や、腹部をみる鍼灸師が多いと思います。これらの診断結果はすべて複雑に混ざり合い、やや重複しています。しか

し、日本の鍼診断法の一般的な特徴は、診断、治療、診断、治療と、これを何回も繰り返すという流れがあります。

最後に、治療原則についてお話したいと思います。治療の原則は、方法やツールを含む患者の状態の治療に従うべき規則です。7つのカテゴリーを使って、日本の鍼治療の治療原則を説明します。私の研究は鍼灸についてでしたので、鍼とお灸に焦点をあてました。そして、鍣鍼が大人と子供の両方に使われていることを発見しました。これは日本の鍼灸のユニークな特徴だと思います。もちろん、カップリング、電気機械、および手動療法など、他にも使用するツールが沢山あります。日本の鍼治療にはとてもたくさんの種類の道具があります。私は、日本の鍼治療は西洋諸国の中国の鍼治療よりも、はるかに種類が多いと思います。特に西洋で行われている中国の鍼治療と比較して、日本の鍼は細くて長い傾向があります。セイリンで販売されている鍼に関して次の表を見てください。上段が日本で一番販売されている鍼の太さと長さを表しています。下段は海外で一番販売されている鍼の太さと長さです。この表を見てもわかる通り、細くて長い鍼を使うのが日本の特徴と言えます。しかし、日本の鍼灸師も太い鍼を使用することもあるので、使用される鍼の種類によっては中国の鍼治療といくつか重複する部分もあります。日本製の鍼と中国製の鍼の両方が世界中で使用されています。中国製の鍼は鍼管と一緒に販売されています。

役割もあります。日本の鍼治療の道具は多様で微細な刺激を与え、患者の不快感を最小にするために使用されます。身体全体の状態を改善するよう、経穴を選びます。その症状を治療するよう触診と解剖学的な知識も使います。日本の鍼灸師は一般的に、観察、または触診し、身体の異常の存在によって経穴の位置を決めます。教科書にこだわらない方法ということです。

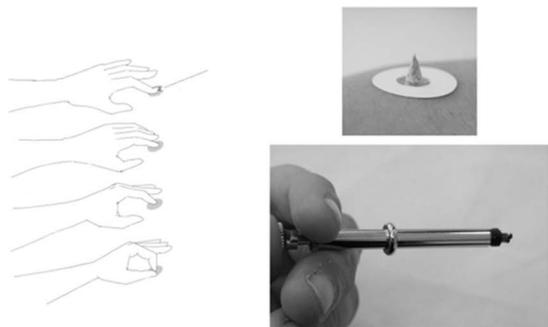


これは中国の 鍼治療で経穴部位の場所決定の写真です。正確に教科書通りに行うのが特徴です。日本の鍼治療とは対照的です。次に施術の準備を行います。ここでの準備とは、皮膚の消毒と使用する道具の殺菌も含まれます。左側の図は、経穴の位置と肌の準備の例を示しています。道具をつける前に肌を準備します。日本の鍼灸で施述の方法には種類が多いです。そして、すべての鍼灸師は押手を大切にしています。写真は、お灸をする前の準備の写真です。これらは、どちらも日本の鍼治療における重要なテーマである、治療の正確さ、最小限の刺激、そして患者の快適さを維持することを実証しています。日本の刺繍方法は 鍼を刺入、刺鍼法、そして保持されるかまたは即座に抜鍼されます。日本の鍼灸師は、置鍼と短針を組み合わせ使用する傾向があります。置鍼をやりながら違う場所短鍼やお灸をする場合が多いです。これは日本の特徴で、中国の鍼灸では行わない方法だと思います。鍼の保持時間は、中国の鍼よりも日本の鍼の方が短いです。中国の鍼では、おそらく 30 分が標準的です。しかし、鍼灸整骨院の短鍼は使わず置鍼が保たれている時間は比較的長いため、中国の鍼治療に似ている部分があるかもしれません。日本の鍼灸のお灸は、間接灸と直接灸に分かれています。日本のお灸の道具と使い方には種類が多いことがわかりました。しかし、ほとんどの鍼灸院で

中国の鍼灸		日本の鍼灸	
太い針	低級もぐさ	細い刺激	不快感を最小限に抑える
		長く、細い針	鍼管
		高級もぐさ	鍣鍼 (ていしん)
Type	Diameter	Length	
Domestic sales	J-type	0.16	40 mm
	J-type	0.18	40 mm
International sales	J-type	0.16	30 mm
	J-type	0.20	30 mm
	J-type	0.25	30 mm

日本では金属製の鍼管を使用することもあります。これは日本だけで、鍼の挿入を助けるだけでなく、それ自体一種の治療器具としての

鍼が使用されているのに対し、お灸を使用しない鍼灸院があります。さらに、お灸だけを使用している鍼灸院があるという点は日本の特徴であると言えます。日本で最も一般的なお灸は台座灸だと思います。中国の鍼治療では一般的なお灸は台座灸ではなく、棒灸と灸頭鍼だと思います。日本の灸の最も特徴的なタイプは透熱灸と知熱灸です。日本の鍼灸師は、艾で円錐形をどのように作り、使うかに非常に注意を払っています。灸では、艾の円錐体の大きさ、形状、強度は非常に重要です。使用する際には酸素の調節とお灸が終わるタイミング、手によって加えられる圧力は非常に重要です。これは日本の鍼治療のユニークな特徴です。日本の鍼灸師は艾を使って円錐形を作る際に、円錐体の大きさ、形状、および一貫性は非常に重要視しています。オーストラリアの鍼灸の学生は直接灸の勉強はあまりしません。オーストラリアの鍼灸師は艾の円錐を作る際は、形だけに気を配り大きいものを作ります。また、直接灸を使用していないクリニックがほとんどだと思います。



日本の鍼灸師は、患者の治療の効果に常に気を配り確認します。確認は3つのレベルでタイミングと体の場所で行われます。例えば鍼の場合、経穴に鍼を刺して確認する、何箇所か刺して機能をみる、脈や肌などで全体を見ます。日本の鍼治療は試行錯誤していると言えます。しかし、ほとんどの開業医は多くの刺激を与えることは悪いと考えているので、あまり刺激を与えないよう注意しています。これは、中国にはない考え方です。中国の鍼治療は強くて長い刺激が良いという考えを持っているからです。中国の鍼治療における確認は漢方薬とよく似ています。彼らは患者が次に治療に来た際に改善したかどうかを確認し、結果によっては方針を変えるという方法をとっています。

以上が私の研究の一部です。今、私の発表を聞いてくださっている皆さんにとっては、当たり前なことだと思って聞いていた方がほとんどだと思います。ですが、日本以外で鍼灸を学んだ人にとって、これらは新しい情報なのです。重要なのは、日本の鍼治療の特徴だけでなくそれをどのように表現するかの手組みでもあります。私はこの研究が日本の鍼灸を英語で説明するための最初のステップになると考えています。これまでの得られたデータをもとに研究を拡大し、確認する必要があります。私は現在この研究に取り組んでいます。